

子どもたちが生き生き

“鬼ごっこ”の魔法



第1回



なぜ、学校教育相談で「鬼ごっこ」なのか

栃木県公立小学校教諭

伊澤 孝

いざわ たかし 筑波大学社会人大学院に内地留学し、カウンセリングを学ぶ。
日本学校教育相談学会栃木支部監事、しもつけ学校カウンセリング学習会代表。
公認心理師、ガイダンスカウンセラー。日々悪戦苦闘中です……。

昨年度は「じゃんけん」の魔法」を連載させていただきましたが、今年度は「鬼ごっこ」の魔法」です。よろしくお願ひいたします。

学校教育相談の雑誌になぜ「鬼ごっこ」なのか、初回は、学校教育相談と「鬼ごっこ」の関係を考えたいと思います。

グループカウンセリング… 「予防・開発・問題解決的援助」の視点

学校現場では、構成的グループエンカウンター、対人関係ゲームなどで知られるグループカウンセリングを活用している先生が多くいらっしゃいます。不登校やいじめに対する予防的援助、個々の子どもや学級集団の質的向上のための開発的援助、起こってしまった問題に対する解決のための援助ツールとして有効です。これらには、「鬼ごっこ」をベースとしたワークが数多くあります。

グループダイナミクス… 「集団が持つ力」の視点

グループダイナミクスとは、集団の持

つ力を活かして、個々の課題を解決していかうとする考え方です。臨床現場では薬物使用障害に対する心理療法で取り入れられることが多いようです。

認め合い、励まし合える仲間パワーがポイントです。

教育現場でも、みんなで「楽しいなあ」と感じられるワーク（集団遊び）を実践することができたら、お互いの親近感や学級への所属感を大きく高めてくれるでしょう。

システムズ・アプローチ… 「つながり方への援助」の視点

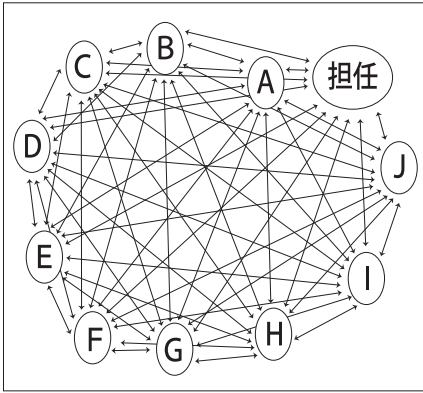
さて、学級集団とは何本のつながり（線）でつくられているのでしょうか。

一〇人学級を例に考えてみます。一人一人が九人のクラスメートとつながっているのですから 10×9 、個々の間がだぶっているので÷2、一〇人学級は四五本のつながりで行われています。

このつながりは、二〇人学級なら一九〇本、三〇人学級なら四三〇本になります。さらに担任の先生（自分自身）を加



図 学級システムの模式図



えたこのつながりを学級システムととらえ(図参照)、そこにいろいろな遊びを使って介入していく方法を学級システムズ・アプローチといいます。

このアプローチを追求されている、日本カウンセリング学会の田上不二夫理事長が、「遊びの持つ力」について次のように述べられています。一部を紹介します。

- ・遊びの中で人にやさしく受け入れられると、人間関係の欲求が満たされ、人にやさしくなれる。
- ・楽しさの共有は、人と人との絆を深める働きがある。仲間意識が育つ。

・集団遊びにはたくさんさんの社会的行動が含まれている。協力したり、助けたり助けられたり(中略)遊びには人間関係を発展させる重要な要素がたくさん含まれている。

子どもの心が育つためには、スキルを身につけるためには、そして、仲間同士のかかわりを深めるためには、集団遊びがとても大切なのだと思います。

鬼ごっこを 心理的援助技法として活用する



グループカウンセリング(予防・開発・問題解決的援助)、グループダイナミクス(集団が持つ力)、システムズ・アプローチ(つながり方への援助)、これら心理的援助の視点を重ね合わせると、「鬼ごっこ」というワークが浮かんできます。

この連載では、古今東西子どもが大好きな鬼ごっこ遊びを、改めて「仲間づくり」の視点でとらえた活用方法を提案したいと考えています。

また、子どもだけでなく大人も「ハマ

“鬼ごっこ” いろいろ

古くからは…

- ・ふやし鬼
- ・こおり鬼
- ・手つなぎ鬼
- ・どろけい
- ・子とりおに
- ・缶けり
- ・だるまさんが転んだ
- ・ハンカチ落とし
- ・フルーツバスケット
- ・三色鬼
- ・宝取り鬼

最近では…

- ・スポーツ鬼ごっこ
 - ・逃亡者
- などなど



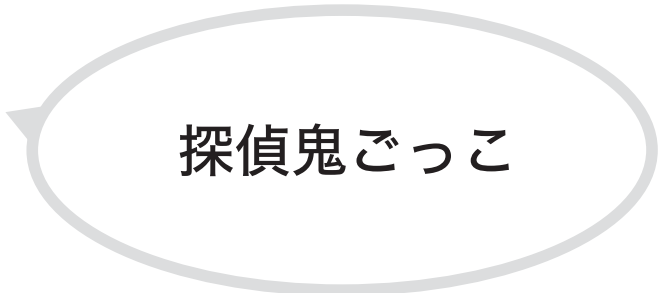
る」鬼ごっこがあります。それは、日本カウンセリング学会のグループカウンセリング研修会で毎年行われる象徴的なワークの一つで、ここでは「くまがり」と呼ばれています。これも、みなさんにぜひ知ってほしい鬼ごっこの一つなのです。が、ルールが複雑なので、本連載の中で少しずつ紹介していこうと思っています。

〈引用文献〉

田上不二夫(二〇一七)『不登校の子どもへのつながりあう登校支援―対人関係ゲームを用いたシステムズ・アプローチ』金子書房

新型コロナウイルス感染防止に配慮したグループワーク
その9

なるべく触れ合わないよう
大きな声を出さないよう
混み合わないよう
同じものを触らないよう
従来のグループワークを
工夫してみました



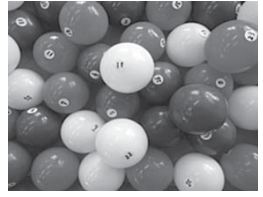
探偵鬼ごっこ

今年度も昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染防止に配慮したワークを「特別編」として掲載させていただきます。年が明けてから、状況は、昨年以上に深刻な事態になっています。今後も予測が付きません。私たち教師も、何を、どこまで求められていくのでしょうか。先が見えないながらも（だからこそとも言えるのですが）、「コロナ対策ワーク」を不定期で紹介いたします。基本的に、鬼ごっこを軸に、「従来行われているグループワークに感染予防のための一工夫」を施した展開の提案です。

プラスチックボールの使用を

まず、前年度も紹介しましたが、鬼ごっこのワークを行うにあたり、接触（タッチ）を避けるための「プラスチックボール」使用の提案です。「体育や休み時間、友達同士の接触は一切なし」で取り組まれている場合でも、この方法で解決できます。プラスチックボールは、玩具店や百元

ショップで安く購入できます。ボールに出席番号を記したシールを貼り、マイボールとし、タッチの代わりに当てます（下手投げをルールとします）。これで、接触（タッチ）なしで、本編で紹介していく鬼ごっこ系の遊びが可能になります。運動会の玉入れ用の玉を使うのもいいでしょう。ぜひお試しください。



「探偵鬼ごっこ」

探偵鬼ごっこは、もともとタッチなしの鬼ごっこです。三〇人学級を例に説明します。

スクランブル戦

一〇枚の紙にマジックで、例えば「りんご」「みかん」「すいか」など一〇種類の果物を一枚に一つずつ書きます（紙は、ミスプリントの裏側でOK）。「みんなが座って目を閉じている間に、



先生は、一〇人の人の背中に紙を貼ります。紙が貼られた一〇人は「容疑者」、貼られなかった人は「探偵」になります。背中に貼られた紙には、それぞれ果物の名前が一つ書かれています。

『はじめ!』のかけ声で目を開け、「探偵」は「容疑者」を追いかけて、誰の背中に何が書いてあるか、なるべく多く見つけて覚えておいてください。「容疑者」になった人は、なるべく背中の紙を見られないように逃げてください。

では、まず、みなさん、座って目を閉じてください」

と説明して始めます。一〇種類の果物がそれぞれどの「容疑者」に貼られていたかを覚えるのも、結構大変です。

一定時間、追いかっこをしたら終了です。

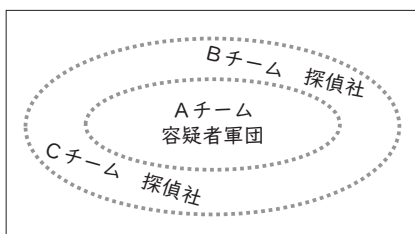
「探偵」の人は、「容疑者」のところへ行行って『りんご、だよね』などと確かめます。「容疑者」の人は『当たり前』とか『違うよ』と答えます」

勝ち負けではなく、コミュニケーションを楽しみます。

団体戦

一〇人ずつのA・B・Cチームに分けます。Aチームを「容疑者軍団」、BチームとCチームは「探偵社」とします。

図のように二重線を引いた内側に、「容疑者」たちが入ります。



それを囲むように「探偵」たちが位置します。

「Aチームの「容疑者」たちは、それぞれ好きな果物を紙に書き、お互いの背中に貼り合います。

『はじめ!』のかけ声で、BチームとCチームの「探偵」たちは外側の枠内を走り回って、内側にいる「容疑者」の背中の文字を読んで、どの果物が誰の背中に書かれていたかを覚えてください。

「容疑者」は、読まれないように逃げてください。ただし、内側の線から出てはいけません。「容疑者」同士が背中合わせになって、文字が見えない状態をつくっ

てしまうのも原則です。

勝負は、どちらの探偵社が多く正解できたかです。探偵社同士の戦いですから、「探偵」はそれぞれ社内のメンバーで協力しあいましょう。

では、まず、Aチームの「容疑者」たちは、紙に果物を書いて、背中に貼り合います。『探偵』たちに見られないようにしてくださいね」

と説明して始めます。様子を見てほしい時間で終了。先生の進行でそれぞれの「容疑者」が何の果物だったかを全体で確かめていきます。確かめ方は二つ。

- ① チーム全員で話し合って、チームで一つの答えを出し、Bチーム・Cチームが同時に「せーの」で答える方法。
- ② 話し合いはせずに、各チームから一人ずつ解答者になり、「せーの」で答える方法。この方法は、サッカーのPK戦のようなドキドキ感を味わえる。

〈参考文献〉

伊澤孝(二〇一五)『学級の仲間づくりを活かせるグループカウンセリング―対人関係ゲーム集』金子書房